



# 2022年度 年次報告書

御支援いただいた皆様へ

NPO 法人広島こども食堂支援センター

[hs.backyard@gmail.com](mailto:hs.backyard@gmail.com)



## 2022年度 年次報告書の発行に当たって

2022年は、全国で最初のこども食堂が誕生してから10周年という節目の年でした。それ以前にも類似の活動はあったのかもしれませんが、2012年に東京都大田区の「きまぐれ八百屋だんだん」という地域サロンの催し物に、「こども食堂」という名称の活動が加わったことをもって、現在のこども食堂の起源とされています。

特にこの5年間で、こども食堂は驚異的な広がりを見せ、最新の調査では全国で7300か所に達しました。広島こども食堂支援センターは、そのような全国的な機運を背景に2019年4月に発足し、広島県内で唯一のこども食堂の支援に特化した非営利団体として、普及啓発、開設相談、活動資金の助成、情報発信、ネットワークの運営、フードバンク事業等の公益事業を実施することで、草の根のボランティア活動であるこども食堂の拡大に寄与するとともに、後方からの支援を行って参りました。

その結果、2023年8月末現在における広島県内のこども食堂は150か所を超え、このうち多数の団体、特に法人等の後ろ盾がないところを中心に約7割の団体と、普及啓発、立ち上げ支援やフードバンク事業等を通じてつながりを持っているのが当センターの強みとなっております。こうして形成したネットワークは、新型コロナ対策で本来の活動に制約が課せられたこの3年間で、運営者にとって心の拠り所として機能し、不完全な形でも活動を継続していく上で大きな役割を果たしたものと思われまます。

当センターは、設立以来、行政からの補助金や委託料等、公的な資金の提供を一切受けずに活動している全国的にも珍しいこども食堂専門の支援団体であり地域ネットワークです。これもひとえに賛助会員の皆様、寄付金やこども食堂応援資金、そしてたくさんの食材をご提供いただきました皆様のおかげと、改めて心からの感謝を申し上げます。もちろん今後、活動継続のために公的な資金に頼らざるを得ない状況が訪れる可能性もゼロではありませんが、こども食堂の特徴である自由度の高さ、社会のニーズや制度の隙間とも言えるような課題に迅速かる臨機応変に対応できる柔軟性を最大限に発揮するため、可能な限り行政に頼らない運営を目指して活動して参ります。

5月以降、長らく控えられていたみんなが集まっての楽しい会食の時間を再開したとの声が多く、こども食堂から届くようになりました。幅広い地域住民の方々がこども食堂に参加し、顔を合わせてのコミュニケーションが持つ社会的な価値を再認識することにより、子どもを中心に誰もが集まれるこども食堂へのニーズは、運営する側、参加する側を問わず益々大きくなっていくものと思われまますので、引き続き当センター、ひいては県内のこども食堂へのご理解とご支援をよろしくお願い申し上げます。

2023年9月1日

非営利活動法人広島こども食堂支援センター  
理事長 越智 誠 輝

## 目 次

1	普及啓発事業	
(1)	こども食堂地域公開講座@くれ	1
(2)	みんな大好き！こども食堂	2
(3)	講師派遣	3
2	情報発信事業	
(1)	インターネットでの情報発信	4
(2)	マスメディアを通じた情報発信	5
3	相談支援事業	5
4	研修事業	6
5	連携事業	6
6	コーディネート事業	
(1)	ボランティア等のマッチング	7
(2)	福山こども食堂新聞	7
(3)	助成金の交付	7
7	フードバンク事業	11
8	財務諸表	13
	法人概要	16

## 1 普及啓発事業

### (1) こども食堂地域公開講座@くれ

中核市の人口規模に比してこども食堂の広がり少ない呉市で講演会と事例発表を組み合わせた普及啓発イベントを開催しました。市の子育て支援課が市政だよりへの掲載等で協力くださったことにより65名の参加があり、質疑も活発に行われました。

事例発表を担当した3団体はいずれも呉市内で活動している団体であり、講演会終了後は行政の方も含めて別室に集まり、見学やボランティア希望の方との顔合わせを行って新たな広がりへの種を蒔きました。

【日 時】 2022年10月10日(日) 13時～15時

【会 場】 呉市生涯学習センター 椿会館 4階ホール

【参加者】 65名

【出 演】 講 演 NPO 法人広島こども食堂支援センター理事長 越智誠輝  
事例発表 こども食堂むすびとみそしる(呉市)  
呉YWCA わいわい食堂(呉市)  
やすうらみんなのひろば(呉市)



#### 〈参加者アンケートより〉

- ・食は生命を司る大切なものであります。それにかかわって絆を結んでいらっしゃる方たちに感銘を受けました
- ・呉市内での現状を知ることができてよかった。様々な考え方、活用内容があるので広く知ってもらえば良いと考えます。思っていたイメージと違っていた。
- ・とても元気づけられた。色んな問題点や課題が明確になり今後の方向性も含めて考える事ができそう。「まず動くとも周りも動いてくれる」というコメントが背中を押してくれます。
- ・高齢男性で遠慮がちに参加していたが、今日の話聞いて自信を持って動ける間は頑張ります。
- ・開催へと動きます
- ・人と人とのつながり。ボランティアとして参加したいです。
- ・実際に活動されている団体の声を聴けて本気で取り組んでいこうと思いました。
- ・こども食堂という言葉は聞いていたけどなかなか具体的なところは聞いたことはなかったのでそれを知ることができなかつたです。
- ・運営されている方から貴重なお話を頂きました。ありがとうございました。
- ・それぞれの団体の具体的な取り組みが聞けて良かったです。
- ・心の準備ができましたら連絡させていただきます。
- ・みなさん試行錯誤をされて頑張っておられて何か協力できたらと思いました。
- ・こども食堂の由来こどもだけでも利用できる食堂ということが分かり大変参考になりました

た。

- ・間口を広げた子どもの居場の提供等 住まいの近くにできた子ども食堂のことなど色々わかり大変良かったです。是非おとずれてみたいと思っています。
- ・最近よく「子供食堂」と聞くのでもっとあると思った。子ども食堂がただの子どもが会食をするための場所ではないことがよくわかった。
- ・子ども食堂についての理解が深まり良かった。
- ・越智理事長のお話は、初心者の私にとってとても分かり易く勉強になりました。テレビの放映では子ども食堂＝貧困家庭というイメージを植え付けているように感じます。社会緑地域力を高める活動であると言う事を学びました。3 か所の子ども食堂の運営については各個性がありました。目的は参加者がそれぞれ決めて良いという意味がわかりました。皆さんが各々の目的に向けて実践されている実態や頑張っておられる様子をお聞きし、情熱を感じました。
- ・ボランティア精神の素晴らしさを改めて自分自身が考える機会になりました。ありがとうございました。

## (2) 「みんな大好き！こども食堂」

普及啓発を目的とする「1日出張こども食堂」のイベントを、県内各地を巡回しながら、計8回開催しました。2020年、新型コロナ対策で多くのこども食堂が休止を余儀なくされたことを踏まえて、せっかくできた居場所に通えず様々な楽しみや成長の機会を失った子どもたちと子育て中の家庭を応援するために、寄付でいただいた食料品と手作りのお弁当を配付する形式で開始したものです。

様々な規制が緩和された後も、これからこども食堂を開設してみたいという地域からのリクエストに応えた実地研修、空白地域における普及啓発、子育て世帯を応援するための食料品配布といった様々な目的で継続しています。

このうち地域住民のリクエストによりその地域の公民館で開催した5か所については、主となって運営していただけた方々にボランティアスタッフとして参加してもらい、運営の流れを学んでもらうことで、全てがその後の自主開催につながりました。

参加者については、こども食堂に興味があつて初めて参加する地元の子育て世帯と、このイベントの常連スタッフや雰囲気が気に入って来られるリピーターの子育て世帯が半々の割合で、当センターの狙いどおりの成果が生まれたものと考えています。

【2022年度 みんな大好き！こども食堂 開催状況】

No.	開催日	市区町	会場	参加人数
1	4月17日(日)	府中町	久蔵寺	154
2	5月29日(日)	南区	青崎公民館	124
3	7月31日(日)	熊野町	熊野東防災交流センター	93
4	8月28日(日)	佐伯区	楽々園公民館	103
5	10月23日(日)	東区	戸坂公民館	116
6	11月23日(水)	中区	ルーテル教会	131
7	12月25日(日)	中区	ルーテル教会	118
8	2月12日(日)	安佐北区	真亀公民館	109
計				1,671

### 【参加者の感想～府中町から】

「本日はありがとうございました。今回はなかなか行く機会のないお寺に行けて興味津々の様子でした。少し緊張しながら一生懸命に食べている姿を見て成長を感じました。餃子家龍さんからお土産まで頂きましてありがとうございました。美味しかった！これで餃子作るの？美味しく作るよ！とやる気満々でした。近々家庭でも娘と一緒に餃子を作ろうと思います。」

「今日は美味しい餃子ありがとうございました。お汁、漬け物も美味しかったです。こどもさんが配膳のお手伝いをされていて、偉い！と思いました。スタッフの方がこの洋服可愛いよと色々見つけてくださったのでこどもの服もいただきました。ありがとうございます。」

「昨日はみんな大好き！こども食堂@府中町 with 餃子家龍に参加させて頂きありがとうございました！餃子もゴロゴロ？サクサク？した具の食感がよく、めちゃくちゃおいしかったです！餃子家龍さんのサイトをみました！普段は手が出ないお値段なので本当にありがたかったです。お漬物やお汁、ごはんも気持ちがあつたかくなりました。ただ1つ…現地で食べると子供も幼くたくさんいて、まだ食べこぼしも多いので申し訳なさでいっぱいになります(><)カーペットや、座布団にも餃子のタレや、具材をこぼしたりしてすみませんでした。片付けも出来ていないしそこが引っかかっています…。食材も衣類もありがとうございました！」

「息子がお腹いっぱい焼き立て餃子を頂いて、ニンニク臭がすごかったですけど(笑)幸せいっぱいの顔をしていました。楽しく美味しい企画をありがとうございました😊」

「以前、府中の久蔵寺さんで頂いた龍さんの餃子…今日みんなで作りました！不揃いですが笑頑張りました！今日は120個。残りの60個はピザを作ります！作るのは時間かかりましたが…食べ終わるのは20分でした(・・;)♡美味しくいただきました！ありがとうございました！」



### (3) 講師派遣

他団体からの依頼に応じて普及啓発のための講演活動を行っています。

#### ① さとの会「こども食堂講演会」

東広島市内のネットワーク「さとの会」主催の講演会に講師として招かれました。

東広島は、さとの会中心を中心に市社協の協力もあって着実な広がりを見せている地域です。

「広がった今だからこそ、もう一度原点に戻って学び直したい。」というリクエストに応じて、当センターも講演内容を再構築するきっかけになりました。

【日 時】2023年2月4日(土)

【会 場】東広島市総合福祉センター

【参加者】60名



② 生協ひろしま  
 生協ひろしま様が組合員様を対象に開催した講演会に講師として招かれました。同組合では こども食堂へのフードドライブを実施していただき、こども食堂の実態を知っていただく良い機会となりました。

【日 時】 2023年2月19日(日)  
 【会 場】 西区民文化センター  
 【参加者】 52名+オンライン20名



③ 2/23 マアル素 (映画「もったいないキッチン」上映会)

本川町のマアル素では、食品ロスの問題に関心を寄せられ、その解決策の一つであるフードバンクの仕組みから、こども食堂にたどり着かれました。

最初に「もったいないキッチン」という映画の上映会があり、その後でこども食堂のお話を聞いていただきました。

【日 時】 2023年2月23日(木・祝)  
 【会 場】 マアル素(中区本川町)  
 【参加者】 約30名



〈広島県内のこども食堂箇所数の推移(各年度末時点、当法人調べ)〉



## 2 情報発信事業

### (1) インターネットでの情報発信

#### ① ホームページ

県内こども食堂のポータルサイトとして、幅広くこども食堂の情報を発信しています。



#### ② SNS

最新情報の発信に facebook を使っています。



(2) マスメディアを通じた情報発信

テレビ、新聞等マスメディアについては、活動の趣旨を説明した上で取材に応じています。

① 大正製薬様寄付金贈呈式



② 広島西北ライオンズクラブ様車両贈呈式



③ 中国新聞セレクト コラム「想」

<p>近年、世間の耳目を集めている子ども食堂について、満足いごはんを食べられない子どもたちが行くところというイメージを持つ方が以前は多かった。いや、今でもそうかもしれない。そこでいつも投げかけるのは「だとしたら自分の子どもを参加させたいですか、あるいは自分が子どもだとして気軽に参加できますか」という質問である。相手にステイグマの問題に気付いてもらうところから子ども食堂の普及啓発はスタートする。約十年前に東京で始まった子ども食堂は、長らく子どもの貧困対策としてマスコミで紹介され、政府もその認識であった。個々の子ども食堂を見れば、対象を貧困家庭等に限定しているのはほんの一握りであるにも関わらず、実態とイメージが大きく乖離してしまっただけである。では、本当の目的は一体何なのか。県内の運営者の声に耳を傾け、自分でも西区横川で「薬だ食堂」を主催しながら自問自答し続けた結論は、「あえて目的を明確にしなくていい。」という発想の転換であった。言い換えれば「参加者それぞれの目的でOK」であり、この柔軟性が最大の特長なのである。</p>	
<p>実際に子ども食堂に参加した老若男女が、「また来たい」と思われるからである。もちろんその中には、無料又は安価な食事という経済的な利得を求め人がいるかもしれない。しかし、かつての報道のように、結果の一部を切り取って全体的な目的であるかのようにすり替えると、冒頭のようなステイグマにつながってしまう。逆説的ではあるが、あえて目的を明確にしないことで誰もが抵抗感なく参加でき、結果的に様々な目的が達成されるのが、子ども食堂という社会現象の実像である。機会があれば、一度固定観念を捨てて、お近くの子ども食堂に足を踏み入れていただきたい。そこでは、地域の幼児から高齢者まで、支援する側とされる側の境目なく、明るく楽しく温かい時間と空間を共有している、どこか懐かしい光景に出会えるであろう。(NPO 法人広島子ども食堂支援センター 理事長)</p>	

3 相談支援事業

① 開設相談

子ども食堂開設に向けた相談に対応しました。当センターに直接連絡をもらう場合もあれば、行政や社協、子ども食堂運営者から当センターを紹介される場合もあります。

相談支援の手順としては、メールや電話で相談希望を受け付けた後、対面あるいはオンラインで相談者への助言を行い、必要に応じて実際に開催されている子ども食堂の見学を案内し体験してもらうことでモチベーションを高めてもらい、具体的な計画を立てていきます。

2022 年度中にオープンにこぎつけた団体は 16 団体を数えました。

- 相談件数・・・・・・・・・・27 件
- うち新規オープン・・・・16 団体

② 運営相談

子ども食堂運営上の課題についての相談にメールや SNS、電話で随時対応しています。



## 4 研修事業

### (1) 2022 こどもの居場所づくり学習会

許認可制ではないこども食堂は、自由度の高さを特長とする反面、活動の質を担保するものがなく、質の向上は主催者の自主性に任されています。そこで当センターでは、年に1回、こども食堂運営者とスタッフを対象とする研修を開催し、全体の底上げを図っています。

2022年度は、食品安全衛生講習と、こども食堂に先駆けること10年、空き家等を地域の居場所と運営する「茶の間」の創始者、河田珪子さん講演会の2本立てで開催しました。

【日 時】 2022年10月18日(日)

【会 場】 広島ガストピアセンター (zoomによるオンライン参加と併用)

【参加者】 60名

【内 容】 14:00~14:30 食品安全衛生講習

奥窪 佳津子 (当センター理事・管理栄養士)

14:40~16:00 河田珪子さん講演会 (実家の茶の間創始者・世話人代表)



### (2) あいサポート研修会

県が実施している障害者支援に関する普及啓発事業「あいサポート運動」を活用して、障害に対する理解と適切な支援について学ぶ講座を受講しました。

【日 時】 2022年12月5日(月) 14:30~16:00

【会 場】 ルーテル教会 (オンライン併用)

【参加者】 24名



## 5 連携事業

### (1) こども食堂ネットワーク会議

県内のこども食堂運営者が2か月に1回(奇数月の第4水曜日)集まって、情報交換するとともに、当センターの運営についての意見照会と協力依頼を行っています。

法的な基準がなく自由な反面、公的なサポートもなく孤立しがちな運営者にとって、貴重な意見交換の場であるとともに、連帯意識を高め、広島のこども食堂のブランド

第27回 5月25日(水) ルーテル広島教会及びオンライン

第28回 7月27日(水) ルーテル広島教会及びオンライン

第29回 9月28日(水) ルーテル広島教会及びオンライン

第30回 11月23日(水) ルーテル広島教会及びオンライン

第31回 1月25日(水) ルーテル広島教会及びオンライン

第32回 3月25日(水) ルーテル広島教会及びオンライ

## (2) 全国こども食堂支援センターむすびえ

### ○ こども食堂全国サミット 2022 参加

2月にオンライン開催され、県を代表して当センターが参加しました。

### ○ お宝シェアプロジェクト

毎回異なるテーマで全国のネットワーク運営者とオンラインで意見交換を行いました。

### ○ 中国地方ネットワーク運営者の連携事業

2023年7月16日(土) 13:00~17:00 オンライン開催

## 6 コーディネート事業

### (1) ボランティア等のマッチング

- ・メールや電話でのボランティア希望があり、希望の地域や曜日を確認の上、受け入れを希望する団体とのマッチングを行いました。(件数：18件)
- ・タカキベーカリーの社員の方が同社の「ピープ」をチョコレートでデコレーションする簡単なケーキ作り体験を各地のこども食堂を巡回して実施しています。

### (2) 福山こども食堂新聞

昨年度、福山暁の星高校の生徒が創刊した「福山こども食堂新聞」の発行に当たり、内容の監修と印刷経費の助成を行いました。

創刊した生徒が進学した後、新たに引き継いだ1年生2人に広島のこども食堂への見学に来てもらい、紙面づくりについてアドバイスしました。



## 7 助成事業 【助成件数：85団体 助成金額：計1,456,000円】

賛助会費と寄付金を財源に、こども食堂の立上・運営経費を助成しました。実際に運営者にお会いし話を聞いて信頼関係を築いた上で、簡便な手続きにより速やかに助成金を交付することが当センター助成事業の特徴です。

### (1) 新規開設団体への助成 【助成件数：15団体 助成金額：計610,000円】

#### ・はぐくみ食堂(安佐南区)

3月の「みんな大好き!こども食堂」@沼田公民館にスタッフとして参加されたグループが、同公民館を会場に立ち上げられました。元は暴走族の更生のために活動されていましたが、区内最後の暴走族が解散したため、新たな活動としてこども食堂に取り組んでおられます。地域の子どもたちに大人たちが継続的に関わることは、非行の予防につながる活動であり、たくさんの子どもたちに来てほしいという願いどおり、現在では毎回100人以上の参加者を迎えています。



・西林寺みのり食堂（安芸郡坂町）

安芸郡坂町の山側にあるお寺を会場に婦人会が中心となって運営されています。立上げ前には坂町社協や地域包括支援センターと連携した勉強会が開かれ、当センターは講師として西林寺に伺いました。こちらも現在では毎回100名の参加者が訪れるようになり大変賑わっています。



・しあわせこうち食堂（三次市）

三次市立小文小学校がある河内地区で2か月に1回の開催がスタートしました。子どもの少ない地域ですが、若い運営者の方が、その子どもたちにも手伝ってもらって住民の交流の場、子どもたちを見守る場として運営を続けておられます。



・スマイル食堂（西区）

先にフードバンク活動をされていた女性が、子どもたち、子育て家庭とつながりたいと当センターに相談に来られ、中区堺町の飲食店で開始しました。現在は西区観音の飲食店に移転し、調理は店内で、会食は隣接する公園でというスタイルで開催されています。



・らくらくえんぱにぱに食堂（佐伯区）

運営者の方が「死ぬまでにやりたかった」こども食堂を思い立って5年、みんな大好き！こども食堂の開催をきっかけに最初の一步を踏み出し、楽々園公民館で月1回の定期開催が始まりました。初回から60人、今では100人の予約がすぐにいっぱいになる人気ぶりです。



・おおばら かぞく家食堂（江田島市）

広島市内から江田島市大柿町に移住した若いご夫婦が、江田島市内で初のこども食堂を立ち上げられました。高齢化が進む地域ではありますが、同世代の子育て世帯を中心に近所の高齢者や外国人研修生なども集まって、まさに地域の交流拠点となっています。



・キャロルハウス（西区）

西区草津南は昔ながらの地縁が色濃く残っている一方、若い世代も多く住む地域ですが、なかなか双方が交流する機会がないため、一軒家を地域のサロン「キャロルハウス」として開放し、その行事の一つとしてこども食堂を始められました。運営者の方が地域の人々をつなぐ役割を積極的に果たされ、初回から大賑わいになっています。



・こどもレインボーカフェ（西区）

修道大学の学生の卒業研究のため3回限定で開催されました。毎回名前を変えたり参加費を変えたりし、参加者からアンケートを取って検証するというデータ収集も行われました。



・なだのたまり場DEN DEN（南区）

南区向洋大原町で、自身も子育て中の若いお母さんが始められました。「みんな大好き！こども食堂@むかいなだ」を開催した時にお手伝いで参加された方です。子育て世代ならではの視点で子どもたちが楽しめる企画を毎回考えて工夫され、すぐに子どもたちがいっぱいになりました。



・つながる愛・三田地域食堂（安佐北区）

安佐北区白木町三田は山と川に挟まれた自然豊かな地域です。子どもたちの数は少ないですが、小学校の近くで月1回日曜日に開催し、幼児から高齢者まで幅広い世代の交流拠点となっています。



・地域食堂さくらんぼ（安佐北区）

「みんな大好き！こども食堂@高陽」の開催後、2か月後にはオープンにこぎ着けられました。会場の安佐北区真亀公民館には、毎回開始前に行列ができるほど月に1回の開催を楽しみにしている方が増えました。



・こども食堂 yummy smile（福山市）

福山市大門町にて始まったこども食堂です。こども食堂は月に1回ですが、毎週オープンスペースの日があり、放課後の居場所づくり活動もされています。



・大四だんだん（東区）

戸坂公民館での「みんな大好き！こども食堂@へさか」開催をきっかけに、東区戸坂大上四丁目、通称「大四」の民家で地元の主婦が立上げたこども食堂です。小規模ですが、子どもたちの楽しい声が聞こえる居場所ができました。



・己斐えがお食堂（西区）

運営者は定年を迎えられた男性です。珍しいパターンですが、あちこちで見学をした後、地元の己斐上で立ち上げられました。当センターのネットワーク会議にも参加されて学びを深めながら活動を継続されています。



・こもれびキッチン（安佐北区）

文教大学の学生寮に入っている学生たちが地元の子どもたちとの交流のため、深川こども食堂の開催日に合わせて、おやつづくりをするところから始めました。県外から広島に来た学生たちの地域に根差した取組により、学生と子どもの双方にとって良い影響が生まれています。



(2) 運営資金・課題解消への助成【助成件数：5 団体 助成金額：計 136,000 円】

既存の団体で新たにネットワークに加入した団体や、運営上の特定の課題（備品の購入、修理など）に必要な経費の支援を目的に個別の助成を行いました。

(3) 物価上昇等対策助成金【助成件数：延べ38 団体 助成金額：計 710,000 円】

物価上昇や新型コロナ対策といった要因でこども食堂（地域食堂）運営にかかる経費が増加していること踏まえ、当法人にいただいた寄付金・賛助会費を財源に2回にわたり臨時的助成金を交付しました。

## 8 フードバンク事業

こども食堂に特化したフードバンクとして、個人・団体・企業の皆様から「食品ロスの削減」や「子育て応援のために」といただいた食料品を配付しています。

提供希望のご連絡をいただいたら品目、数量、賞味期限、配送条件を確認の上、LINE アプリやEメールでこども食堂運営者に希望数量を紹介し、開催日まで届くよう受取、保管、引渡しの手配をするのが当センターの機能であり、こども食堂を安定的に運営していくためのインフラとして重要な役割を果たしています。

7月には、広島西北ライオンズクラブ様から軽自動車1台の寄贈があり、念願であった職員が食料品を受取り、配送するための専用の車両を確保することができました。せっかく食材の提供希望があっても引取りに行くことが条件であった場合は断念することもありましたが、以後、迅速に対応ができるようになっていきます。また、運営者の中には車を持っていない方もおり、そういった団体に届けることや、大量の寄付があった時には各地の拠点となるこども食堂に届け、そこを中継地点としてより広域にフードバンク事業を実施できるようになっています。



【取扱量】 2022年度 3.3 t (2021年度 2.0 t)

※あいあいねっと、ゆるてい、他のフードバンクからの提供分を含みます。

【主な品目】 お米、野菜、冷凍食品、お菓子、飲料、災害用保存食、調味料など

【提供先】 約80団体

○ ひとり親家庭への食料配布

特に参加条件を設けないこども食堂には、結果として様々な職業、家族構成の世帯がやってきます。継続的に参加しているうちに運営者との間に信頼関係ができてくると各家庭が求めていることがわかってくるので、運営者は個別のニーズに柔軟に対応しています。

ひとり親家庭への食料配布もその一つで、仕事と家事と子育てを単身でこなしているひとり親は、時間的にも精神的にも余裕がない傾向にあるため、寄付の食材などを配布して少しでも余裕が生まれるように配慮しているところです。

そのような背景からつながったひとり親のネットワークが「OYATOKO」です。自身のシングルマザーとしての経験から、ひとり親向けのフードバンク活動を開始したいとの相談を受けた当センターでは、この活動のために食料品を提供するとともに、主催事業である「みんな大好き！こども食堂」に参加したひとり親を紹介するなどして、活動を応援しています。

また当センターの事業執行上、事務員の雇用が必要であるため、OYATOKO 運営者を当法人の職員として雇用し、これにより、フードバンク事業や情報発信事業の円滑化が図られるとともに、ひとり親家庭と地域のこども食堂との結びつきを強化することができるようになっていきます。

〈OYATOKO の概要〉

名 称：OYATOKO 広島

活動開始日：2021年5月31日

目 的：ひとり親家庭を対象とした包括的支援

活 動 内 容：①フードバンク活動 ②ひとり親家庭コミュニティ運営

活 動 日：毎週月曜日

配送エリア：広島市、廿日市市、呉市、東広島市、安芸郡等

配送家庭数：登録約120世帯



## 8 財務諸表

2022年度 活動計算書  
2022年4月1日から2023年3月31日まで

特定非営利活動法人広島子ども食堂支援センター

(単位:円)

科目	金額	
<b>I 経常収益</b>		
1. 受取会費		
賛助会員受取会費	2,140,526	2,140,526
2. 受取寄附金		
受取寄附金	5,016,363	5,016,363
3. 受取助成金等		
受取民間委託費	260,000	260,000
4. 資産受贈益		
資産受贈益	1,500,000	1,500,000
4. その他収益		
受取利息	40	40
雑収益		
経常収益計		8,916,929
<b>II 経常費用</b>		
1. 事業費		
(1) 人件費		
給料	2,916,440	
福利厚生費	517,710	
人件費計	3,434,150	
(2) その他経費		
貸金	0	
報償費	176,879	
旅費	75,538	
光熱水費	60,000	
燃料費	86,538	
印刷費	33,167	
消耗品費	234,791	
通信運搬費	74,989	
手数料	23,754	
保険料	95,920	
貸借料	440,000	
助成金	1,456,000	
減価償却費	316,000	
租税公課	0	
その他経費計	3,073,576	
事業費計		6,507,726
2. 管理費		
(1) 人件費		
給料	729,110	
福利厚生費	129,428	
人件費計	858,538	
(2) その他経費		
消耗品費	5,142	
印刷費	40,190	
光熱水費	84,472	
旅費	0	
通信運搬費	0	
手数料	4,180	
貸借料	88,000	
減価償却費	43,520	
租税公課	300	
その他経費計	265,804	
管理費計		1,124,342
経常費用計		7,632,068
当期経常増減額		1,284,861
<b>III 経常外収益</b>		
1. 固定資産売却益		
経常外収益計		
<b>IV 経常外費用</b>		
1. 過年度損益修正損		
経常外費用計		
税引前当期正味財産増減額		1,284,861
法人税、住民税及び事業税		0
当期正味財産増減額		1,284,861
前期繰越正味財産額		3,646,803
次期繰越正味財産額		4,931,664

※ その他の事業は実施を規定していません。

※ 計算書類の注記

計算書類の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日 2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会）によつて  
います。



2022年度 財産目録

2023年3月31日現在

特定非営利活動法人広島こども食堂支援センター  
(単位：円)

科目	金額	
<b>I 資産の部</b>		
1. 流動資産		
現金預金	3,507,117	
手元現金	30,987	
広島銀行普通預金	3,026,032	
ゆうちょダイレクト	450,098	
未収金	0	
流動資産合計		3,507,117
2. 固定資産		
(1) 有形固定資産		
車両運搬具	1,218,750	
軽自動車	1,218,750	
什器備品	205,797	
ノートパソコンA	108,800	
ノートパソコンB	96,997	
有形固定資産計	1,424,547	
(2) 無形固定資産		
ソフトウェア	0	
財務ソフト	0	
無形固定資産計	0	
(3) 投資その他の資産		
投資その他の資産計	0	
固定資産合計		1,424,547
資産合計		4,931,664
<b>II 負債の部</b>		
1. 流動負債		
未払金	0	
預り金	0	
流動負債合計		0
2. 固定負債		
長期借入金	0	
固定負債合計		0
負債合計		0
正味財産		4,931,664

計算書類の注記

1. 重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準（2011年11月20日 NPO法人会計基準協議会）によっています。

(1) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産は、定額法で償却をしています。

2. 固定資産の増減の内訳

科目	期首取得価額	取得	減少	期末取得価額	減価償却累計額	期末帳簿価額
有形固定資産						
什器備品	313,080			313,080	△ 107,283	205,797
ノートパソコンA	174,080			174,080	△ 65,280	108,800
ノートパソコンB	139,000			139,000	△ 42,003	96,997
車両運搬具		1,500,000		1,500,000	△ 281,250	1,218,750
軽自動車		1,500,000		1,500,000	△ 281,250	1,218,750
合計	313,080	1,500,000	0	1,813,080	△ 388,533	1,424,547

2023年度 活動予算書  
2023年4月1日から2024年3月31日まで

特定非営利活動法人広島子ども食堂支援センター

(単位：円)

科目	金額	
I 経常収益		
1. 受取会費 賛助会員受取会費	1,000,000	1,000,000
2. 受取寄附金 受取寄附金	5,000,000	5,000,000
3. その他収益 受取利息 雑収益	40	40
経常収益計		6,000,040
II 経常費用		
1. 事業費		
(1) 人件費 給料 福利厚生費 人件費計	3,040,000 560,000 3,600,000	
(2) その他経費 賃金 報償費 旅費 光熱水費 燃料費 印刷費 消耗品費 通信運搬費 手数料 保険料 賃借料 助成金 減価償却費 租税公課 その他経費計	50,000 150,000 200,000 120,000 95,000 30,000 160,000 60,000 24,000 95,920 440,000 2,000,000 409,750 0 3,834,670	
事業費計		7,434,670
2. 管理費		
(1) 人件費 給料 福利厚生費 人件費計	760,000 140,000 900,000	
(2) その他経費 消耗品費 燃料費 印刷費 光熱水費 旅費 通信運搬費 手数料 賃借料 減価償却費 租税公課 その他経費計	40,000 5,000 50,000 30,000 50,000 15,000 6,000 110,000 43,520 1,000 350,520	
管理費計		1,250,520
経常費用計		8,685,190
当期経常増減額		-2,685,150
III 経常外収益		
1. 固定資産売却益		
経常外収益計		
IV 経常外費用		
1. 過年度損益修正損		
経常外費用計		
税引前当期正味財産増減額		-2,685,150
法人税、住民税及び事業税		0
当期正味財産増減額		-2,685,150
前期繰越正味財産額		4,931,664
次期繰越正味財産額		2,246,514

※ その他の事業は実施を規定していません。

※ 計算書類の注記

計算書類の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日 2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会）によつています。

## NPO 法人広島こども食堂支援センターの概要

名 称 特定非営利活動法人広島こども食堂支援センター  
設 立 2020年3月3日  
所在地 広島市中区吉島西2-8-3  
電 話 080-5237-4585  
メール hs.backyard@gmail.com  
役 員 理事3名、監事1名（全員無報酬）  
理事長 越智 誠輝  
理 事 奥窪 佳津子  
理 事 長和 洋光  
監 事 佐藤 祐太郎（2023年9月1日時点）  
社 員 13名  
職 員 2名  
沿 革 2017年 代表者が公益財団法人ひろしまこども夢財団でこども食堂支援事業を開始  
県内のこども食堂をネットワーク化、寄付金を財源とする補助事業を創設  
2019年 代表者が同財団退職後、任意団体の広島こども食堂支援センターを設立  
広島県内全域を対象に普及啓発から助成事業までこども食堂に関するあらゆる事業とネットワークを運営するこども食堂の後方支援団体として事業を開始  
2020年 広島市の認可を受け NPO 法人化  
H P <https://hsbackyard2.wixsite.com/home>  
F B <https://www.facebook.com/hiroshimakodomo>

### 2022年度 年次報告書

---

発 行 2023年9月1日

編 集 特定非営利活動法人広島こども食堂支援センター

※本報告書の無断転載を禁じます。



NPO 法人

広島子ども食堂支援センター